

平成30年度第1回 奈良県学校・地域パートナーシップ事業
地域コーディネーター連絡会実施報告書

- 1 日時 平成30年6月27日(水) 9:30~12:00
- 2 会場 県立教育研究所 中講座室1
- 3 参加者 学校・地域パートナーシップ事業における地域コーディネーター 計99名
- 4 内容 9:30~9:35 開会
9:35~9:45 説明「奈良県学校・地域パートナーシップ事業」について
9:45~10:45 講演「地域の教育力を高めるための地域コーディネーターの役割とは」
京都造形芸術大学准教授 濱元 伸彦
10:55~11:55 ワークショップ・振り返り
11:55~12:00 閉会

5 講演概要

○調査・研究から

- ・大阪府のある中学校では、勉強が苦手な子が多いが、クラス・学校として「まとまり」があり「崩れにくい」雰囲気があった。これは、子どもたちが「地域の教育力」の存在によって、「見守られ感」に支えられ、自己肯定感や共生の感覚をもっていたのではないだろうか。
- ・「地域の人にはほめたり励ましたりして応援してくれる」と感じている子どもは、「失敗しても、次がんばろうと思う。」割合や、「イライラしても気持ちを切り替えられる。」割合が高い。
- ・「地域からの見守られ感（地域の教育力）」は、「子どもの自己肯定感」や「立ち直り力（レジリエンス）」を高める。

○学校・家庭・地域の協働

「地域の教育力」がどの子にも伝わるようにするには、学校・家庭・地域が子どもを中心に協働する必要がある。そのために大切なコーディネーターの役割は、

- ・そこで会話をするのが楽しい、自由闊達に意見を交わし合える関係をつくる
- ・具体的な場面で「共に行動」する
- ・参加レベルにかかわらず、どの方にも「参加してよかった」と思える「声かけ」「仕掛け」をする
- ・協働の意味・価値、具体的な様子や課題を皆に伝えるための「良い語り部」になる

○学校と地域の協働で特に大切にしてほしいキーワード

「見守られ感」をはぐくむために、

- ・子どもと大人・大人と大人の間で小さな成長や達成を「よろこび合う」
- ・地域の子どもの課題を「共有し話し合う」



6 ワークショップ・振り返り

- ・現在行っている子どもとふれあう取組をグループで出し合いました。
- ・出された取組について、「見守られ感」を高めるための具体的なアドバイスを出し合い、交流しました。
- ・「見守られ感」という視点を与えていただき、地域と子どもたちが接する機会を多く持つ必要があることや、「見守られ感」という視点をもとに、どうすれば今の活動をより子どもたちの力になるかを考える機会を与えていただきました。



7 感想

- ・私たちの取組の大切さがわかった。
- ・他都市のコーディネーターの方と交流ができて良かった。「見守られ感」を高められるよう工夫して取り組みたいと思う。
- ・活動がマンネリ化して、やらされている感が否めなかった。今日、やはり、継続することが大切なんだなあ実感した。
- ・子どもへの声かけが、子どもの成長段階で人格形成に関わる大きな力を及ぼすとは知らなかった。また参加したい。

